

練馬区立小中一貫教育校推進委員会

第 2 回 推進委員会 要点記録

開催日時	平成 19 年 11 月 21 日〔水〕午前 9 時 30 分～11 時 30 分
開催場所	練馬区役所本庁舎 12 階 教育委員会室
出席状況	出席 14 名
傍聴者	2 名
次 第	案件 (1) 議事録(第 1 回)の確認 (2) 資料の説明 (3) 小中一貫教育校の基本方針の検討 配布資料 ・小中一貫教育校「呉中央学園」について(資料 1) ・先進実施例に見られる小中一貫教育について(資料 2) ・日野学園リーフレット(資料 3) ・日野学園要覧(資料 4) ・呉中央学園リーフレット(資料 5)

会議の概要

委員長

定刻になったので、第 2 回練馬区立小中一貫教育校推進委員会を開催する。活発な議論をいただければと思う。

最初に議事録の確認をしたい。

事務局

議事録は事前に確認をいただき、手元にあるのは校正済みのものである。お気づきの点があれば、指摘いただきたい。ホームページ上で公開していきたいと考えている。

委員長

前回、資料の取扱いについて、一部取扱い注意とさせていただいたが、それについては、オープンにしていくべきだという判断をさせていただいた。

次に資料の説明に入る。資料の要望が 2 点あった。一つは、呉中央学園の学校規模と学校の状況、それから、先進事例における小中一貫教育についての課題である。

事務局

(資料1に基づき説明 省略)

委員長

前回、学校の規模について話があったが、一貫校の適正規模といった議論があるのか。

委員

その辺はよくわからないが、一貫校の利点から考えるとある程度の中学校と小学校の子供たちがいて、交流活動をする上で、これくらいの規模は必要なんだろうな、というのがあった。私の予想だと、中学校はもう少し多いかなと思っていた。しかし、中学校の教員にとっては、自尊感情の回復など非常に良い成果が出ているなと思った。

今、小中連携をやっている。中学校2年生が全員小学校の子供たちの教室に入ってくる。そうすると非常に自分に自身のない子が小学校の子供と学習することで、自己有用感が生まれる。これは、子供のアンケートからはっきりしている。この成果が、私にとっては非常にヒットするような、そういう受け止め方をさせていただいた。

委員長

中学校の子供たちがもう少し多いのではないかと、という話が出ていたが、何か意見があるのか。

委員

いろいろな交流活動をするには、やはり中学校のほうが全クラス3学級ぐらいはあるのかな、というイメージであった。

委員長

本来のたたき台の議論もしていただかないといけないので、もし何かご質問等あれば、個別にお問合せをいただきたい。それでは次の説明をお願いします。

事務局

(資料2に基づき説明 省略)

委員長

全体的な整理を事務局でしていただいた。背景、特徴、成果、概ねこんな整理の仕方になるのかなと思う。たたき台の中に共通する部分とまた違う部分が若干あると思うが、概ね一緒である。既に課題の指摘もあり、練馬区が取り組むに当たって、この課題について一定の整理をして、少しでも成果の上がる一貫校にしていかなければいけないと考えて

いる。ねらいについては、共通性が高いと思うが、練馬の特性、特徴は何なのかということについて、現場の校長先生たちの意見をいただき、その点についても改めて確認をして検討ができれば良いと考えているのでよろしく願います。

事務局

(資料3～5に基づき説明 省略)

委員長

現実に動いている学校のことなので、いろいろ具体的にイメージがわき、参考になるかと思う。

日野学園を作るのに、整備費はどのくらいかかったのか。光和小の改築は35億円ぐらいか。

委員

そうである。

委員長

そういう意味では、小中合わせての学校であるから、規模も決して小さくはない。

委員

日野学園は、総合体育館を併設している。

委員長

前回配布した資料に、総工費約80億円とある。この80億円は、新しく日野学園を改築したもののか。

委員

全面改築したものである。

委員

品川の日野学園の菅谷校長は中学校の出身であると思うが、副校長の小中の内訳を教えてください。

事務局

詳細を把握していない。

委員長

確認しておいてほしい。

次に小中一貫教育校の基本方針、本論に入らせていただく。前回配布した資料を参考にして、議論を進めていきたいと思う。これについては、3回ほど議論いただく予定であり、今回は2回目になる。今回は、小中一貫教育校の設置の動きとその背景、練馬区の実施、意義と効果について、特に意見はなかったが、既に議論は尽くされているのでこれで良いのではないか、という趣旨の発言があったことを記憶している。

事務局のほうで、改めて何か説明することがあるか。

事務局

特になし。

委員長

教育委員の意見、要望が前回の資料にあるが、これについて事務局から何かあるか。

事務局

素案について教育委員から出された意見、要望をまとめたものと教育委員からの意見、要望について下線を引く、具体的な文言についての指摘箇所に網掛けをした素案を見比べると分かりやすいのではないかと考えている。

委員長

素案の1, 2, 3の動きと背景、区の実施、設置の意義と効果の中で、教育委員からこんな意見を是非推進委員会で検討いただければという話があった。「計画的・継続的な学習指導および生活指導が可能である。」については、表現の問題として、もっと前向きな表現が取り組む姿勢としては大事なのではないかと思われる。特段異論はないと思っているので、積極的な表現に思っている。

小学校から中学校へ進学する際の段差を緩やかにする、あるいは段差をなくすということだけではなくて、教育指導上どのように適応させていくのかということ、その辺のところをどうすれば具体的に不登校の子供を減少させることになるのかという点について意見をいただきたい。

教育指導課としては、教育委員の発言をどう受け止めているのか。

委員

段差ということであるが、一人の子供とすれば毎日毎日の連続であるけれども、行く場所とか制服があったりなかったりとか、システムが教科担任とか先輩後輩とか、がらっと変わるので、学校へ行き渋り、不登校といったことにもつながるおそれがある。

心理的な面も含めてそういう課題、乗り越えるべきハードルを低くして、物理的にも心理的にもうまく適応してもらう。逆な言い方をすると不適応をなくしていく、減らしていく。そういうところをこの小中一貫教育のねらいとしていく。そういうねらいをもって、やっていただきたいんだということを教育委員の発言の中から読み取った。

委員長

そうすると、小中一貫教育の内容の成長に応じた段階分け、もちろん教育の目標を含めてであるが、特にカリキュラムの内容や学校の教育活動を円滑にするための学校経営体制の中に、教育委員の指摘の部分について、こういう取組をとというような具体的な表記を盛り込んでいくことになるのか。

委員

小中一貫教育校を考えるとということは、小と中で形態が違うという理由で不適応を起こしている子が多いという現状を踏まえて、いかにそれを改善していくかということが求められているという認識である。したがって、子供が抵抗なく、中学校でやっている勉強とか運動とか行事を身近に見て、中学校に期待やあこがれを持つという姿を作り上げていくことが大事ななという受け止めをしている。

委員長

教育委員からの素案の1, 2, 3についての意見、要望は以上であるが、ほかに意見があればお願いします。特に意見はないようなので、次に今日の検討事項となる4の小中一貫教育の内容について検討をいただきたいと思う。事務局のほうで改めて説明をする部分があればお願いします。

事務局

(資料6 - 1に基づき、4小中一貫教育の内容を説明 省略)

委員長

小中一貫教育校の教育活動のメインになるところである。ここに書かれていることを具体的にどのようにやっていくのかということが、どこまで見えているのか。

校長先生方は、よくわかりのことと思う。保護者の皆様のほうで、いろいろ質問等があるかと思うので、忌憚のない意見をいただきたい。何よりもこの推進委員会の検討の結果で、多くの区民の皆さん、保護者の皆さんにわかりやすいものにしていきたい、

委員

先ほど、知、徳、体の発達について話があった。保護者の目から見て、近ごろの子供は、

知と体の発達早い、徳という心の発達が知識や体力についていけないのではないかと感じる人が多い。知、体という見えやすい部分では、4・3・2という部分で何となくしっくりくるものがあるが、とても見えずらい心という点についてはどうなのかということ先生方に伺いたい。

委員

期、期、期と書かれていると、あたかも学校を三つに分けてというイメージであるが、法令上、小学校6年間、中学校3年間は決められたものである。一貫校であっても6年間が終わったら法令に基づく正式名称の小学校6年間の課程を修了したということで、その学校の校長先生から卒業証書が出る。中学校も3年間終わった段階で、法令に基づく正式名称の中学校の校長先生から卒業証書が出る。該当する学年の教科書は無償給付という原則で、6年生には6年生の教科書が与えられることになる。

その上で、期、期、期の考え方であるが、公立で守らなければいけない部分はそのままとして、区の判断でできる運用の部分で、たとえば、徳育、規範意識をやる。子供たちの心の問題というのは、日本中心配なことは確かだと思う。折角、9年間というスパンで見通しをもって育てるわけだから、たとえば、心を耕していくための規範意識を育てるための年度の計画を作って、共通の視点で規範意識を育てていこうとするカリキュラムを作成することも可能であろう。また、期では、論理的抽象的思考へ移行する時期であるから、たとえば、小学校と中学校の免許を持っている教員を兼務発令ということにして、小学校も中学校も担当できるということは、私どもの権限でできるわけである。たとえば、論理的抽象的思考ということならば、中学校の理科や数学の免許を持っている教員を兼務発令して、小学校も担当させて、5、6年は専門性の高い人に理科や数学で、たとえば理科の実験、観察などを多くするという工夫もできる。したがって、私どもの全く新しい形態でやるということではなく、区の運用として、人をつけることも兼務発令も可能であるし、そういった中でどういう実践ができるのか、9年間を見通した指導ができるのかということを考えていくことになると思う。

最初の質問に戻るが、人間性豊かな子供の育成、ここのところは、是非校長先生方とPTAの皆さまの意見も頂戴しながら、通常の道徳の時間に加えて、是非とも9年間を見通したカリキュラムを作成し、9年間を見通した心の育ちを重視してやりたいと、現在、教育指導課としては考えているところである。

委員長

道徳教育の話が出たが、道徳教育の関係の連携について何かあるか。

委員

今のところはないが、小学校との連携で、小学校の先生方の苦労がよく分かった。子供

の発達がやはり変わった。今まで小6、中1の間にあった成長の壁みたいなものが、確かに早まっているので、ある程度の区切り目をシステム上持たせて、今までの教え方をもう一回再考しようという考え方は良いと思う。ただ、それが4・3・2が良いのか、2・3・4が良いのかということがあるかどうかと思うが、確かに必要であると思う。

委員

4・3・2が良いのか5・4が良いのか、それは十分に時間をかけて、議論をしたほうが良いと思っている。今、子供を見ていると、私が若いころ担任したときは、5年生ぐらいというのは、心身の著しい発達の時期だったが、今は4年生である。4年生の後半から反抗期に入る子供もいるので、結構4年生の担任は5、6年生の担任と同じように専科の先生や養護の先生とも連携を密に図っている。また、校長、副校長へのハウレンソウも多い。5、6年生は、いつも学年で生活指導の対応をしている。したがって、4年生を一つの区切りにするのは、良いと思う。5、6年生は、やはり授業の充実、楽しい授業、よく分かる授業をすると、子供たちは満足感を味わうので、教科担任制は是非5、6年生でやりたいと考えている。

道徳の連携は、下石神井小と石神井南中とはそこまではいかなかった。教科だけに絞ったので、教科の連携をやった。しかし、教科の連携といっても、教科ごとにくいつかの実践、合計すると28授業をやったが、そこからは連携では膨らますことができなかった。やはり、一貫校にならないと、それは難しいことだなと思った。

委員

道徳に特化しないで、結局、9年間の一貫したカリキュラムの中で、やはり知育、体育を充実していけば、当然、徳育がついてくるものだと思う。中学生を見ていると、知的なギャップもあるが、たとえば小学生を招いた部活交流とかあるいは運動会での小中連携の教育であるとか、あと職場体験等で保育園とか幼稚園とか行ったときに、自尊感情の高まり、回復が強い。やはり、異年齢集団の中で、ともに学校生活を共有するとなれば、たとえば7年生、8年生、9年生ぐらいになると、かなり低年齢の子供たちを意識するようになると思う。その中で道徳心だとか、あるいは規範意識が当然備わってくると期待しているところである。実際に、中学生が子供を見るときは、非常に生き生きしている。そんな感じを受ける。

委員

知、徳、体のバランスということで考えていけば、9年間のくくりで考えなければいけないことである。4・3・2で別々にやりなさいということではない。今までの小学校は小学校でやりなさい。中学校は中学校でやりなさいというのとかわりがなくなってしまう。そうではなくて、9年間のバランスということで、知、徳、体を考える。道徳においても、

心の発達についても、9年間、その中の 期ではここを狙おう。 期ではここを狙おう。

期ではここを狙おう。ステップがあったものをスロープにしていくという発想でやっていかなければ、効果はないであろう。子供たちを万遍なく育てるというのは、そういうことではないかなと思う。全体のカリキュラムをどのように考えていくのが問題であろうと考える。

5, 6年生の教科担任制は、知だけで考えれば、効果はあるけれども、徳の場合はどうなんだろう。体の場合はどうなんだろう。体位、体格は伸びているけれども、5年生と中学2年生と一緒に運動を行ったら、どういうことが起きるだろう。そういう観点もいろいろ検証しなければいけないのではないかな。確かに、今、体位、体格が伸びているが、体力は減少している。そういうところも考えながら、グランドデザインを作っていかなければいけないのではないかな、と思っている。

委員長

ほかに何かあるか。

事務局

子供の成長を振り返り、どの辺で心と体の変化があったのかを知ることが、4・3・2の区分を設けるときの一つのヒントになるのではないかなと思う。

委員長

教育委員のほうから4・3・2がなぜ良いのかということと人間性豊かな子供の育成というのは大きな目標なので、ここは「豊かな心と自立心の育成」という言い方のほうが徳育という言葉に合うのではないかなという指摘をいただいている。その辺も踏まえて、発言をいただけるとありがたい。

カリキュラムという言葉の理解はよろしいか。学習指導要領を国が決めており、それをベースにして各学校で教育課程の編成を毎年している。学習指導要領、教育課程あるいは指導計画を作っているようであるが、カリキュラムとは、そういうものをひっくるめた概念ということになるのか。

委員

私は、保護者には学習指導要領の内容をそれらの目標を達成するように、年間計画、月ごと、週ごとに、授業時数との関連で総合的に組織した計画と説明している。ちょっと大雑把であるが、そういうようなことだと思う。

委員長

そういう言い方で理解をすればよろしいか。何でそういうことを言うかということ、やは

り小中一貫教育校とは何かということがどうしても出てくる。今の6・3制の学校をまるっきり変えた新しいものなのかということである。少なくとも法律上の学校ではないので、小学校と中学校があって、それを前提にして9年間を通したカリキュラム、教育課程のベースになるものを考えるんだということが味噌であると理解しているが、それによろしいか。ほかの方に説明するときどういう説明をするのが一番わかりやすいのかなというつもを考えているところである。少し原点に帰ってみたい。

委員

一般的に言えば教育活動の全部の計画である。大まかに使う場合もあるし、細かく言えば、時間割まで言っている場合もあるし、それからどのように伸ばしていこうかという特色を言っている場合もある。全般でカリキュラムを使っている。

委員長

一番広い概念ですね。学習指導要領も含んでいるということになるのであろう。

委員

期、期、期のところには学習を重点的に書いてある。学習というならば、期、期、期でこの説明でわかるが、その後のカリキュラムの内容のところでは、知、徳、体と書かれている。その後、期、期、期の説明があるが、9年間を通した人間性といったことを項目を分けて書いていただいたほうが、分かりやすいのかなというふうに思った。

事務局

小中一貫教育の内容の2番のリード文のところ、心身の発達の変化、学力形成の特質、生徒指導上の諸課題の顕在化等をもとに、ということを入れている。4年生になったら反抗期に入り、以前の起伏が少し前になってきているというような心身の発達の変化といったこともとらえて、たとえば期で1年生から4年生のところをひとくくりにして、4年生にリーダーとしての意識を持たせていく中で、心身の発達も得られるだろうということ。それと、小学校と中学校の期のところでは、学力だけではなくて、心身の発達のところでも中1ギャップの解消をする、といったことも含めているつもりではいるが、確かに学力だけに少し片寄っているような感じがする。

委員長

カリキュラムの内容を前へ持ってきて、知、徳、体に合わせた形で段階分けによる教育という整理の仕方が一つの方法であると思う。今の提言は、多分そういう指摘だと思われる。

委員

小学校1年生でどういう勉強をするのか、2年生で何をやるのかは学習指導要領で定められており、本区は特区を申請するわけではないので、そういう縛りがある。簡単に言えば、教科書としてそれは提示されるわけで、1年生は1年生の国語の授業を受けることになる。その上で、学校では教科書にない部分として、副読本を使っているが、道徳とか、学級活動とか、総合的な学習の時間とか、あと小学校だと若干の余剰の時間というものもある。教科のところは教科としてやることになるが、校長先生の判断で創意工夫ができる部分があり、特色づくりということで使える時間がある。そのところで、たとえば指摘いただいた心の問題をどういうふうな9年間の見通しを持って育てていくことができるのかと、共通の視点でそういったところを考えていくことで、この特色ある小中一貫教育校が生まれてくるという認識を持っている。

委員

教育委員会からの指摘の中で、4・3・2や5・4の方式があるが、カリキュラムを作るときに関係してくるので、この期についてよく議論していただきたいとある。今までの議論の中で、4と3の区切りの部分についてはわりと出ていたと思っている。その他に5・4あるいは考え方としては、4・2・3というようなことも考えられる。区切りそのものについて、何か考えがあればお願いしたい。現行の指導要領では、小学校は2年ごとと聞いているが、中学校は1年ごとでよろしいか。そういった区切りがあると聞いているが、これを小中一貫教育校で適用していくとなると、どのようにこれをうまく折り合わせていくのか、ということが出てくるかと思う。

委員

5年生の娘がいるが、やはりいろいろ見てきて、低年齢化しているということで、4年生の時期からいろいろ問題も出てくる。それは、なかなか表立って、ということではない。自己主張をして、体力的にもできてきたときに、問題が起きたり、けんかをしたり、というのが表立って出てくるのが、だいたい5年生である。そうすると、やはりこの区切りは、4・3・2が良いのかなと個人的には思っている。4年生のときにはそうでもなかったが、女の子は、特に5年生から急に身体的にもできてくるし、考え方もずっと大人びてくるので、この時期に、5年生、6年生、中学校1年生のちょうど変わり目の時期に、ひとくくりがあると良いのではないかと思う。これからどんどん伸びていくときに、教科担任制にさせていただき、5年生ぐらいのときに、学習面についてしっかり基礎ができていれば、社会でも理科でもそうであるが教科ごとに、今後中学校にあがって、もっと細かく勉強していくときに、そういえばあの時こういう勉強をしていたということがよく分かってくると思う。上が中学生なので、中学校に入ったときに、めしべについて理科でやったり、社会でも単元ごとに問題が出てくると、そういえば5年生のときにやっていた、6年生のとき

にやっていたというだけで、その頃はあまり覚えていない。教科担任制で、5年生、6年生のときに、おもしろい授業をしていただいたり、何か一つでもいいので、興味をそそられるような授業をしていただけると、すごく子供たちには良いのではないかと思う。ちょうどこの時期、中学生に入る頃は、どうしても下の子よりも上を意識してしまう。中学校1年生であれば、上の中学校2年生、3年生を意識して、どうしても行動するパターンになるので、下の子供を見て、面倒を見てあげるといふことにおいては、やはり小中一貫教育というのは意義が深いと思う。

委員長

学習指導要領で小学校が2年くり、中学校が1年くりであるということと4・3・2の区分けというのは、何か関連があるというふうに理解をしてよろしいのか。教育指導課ではどのように考えているのか。

委員

学習面では、学年ごとにやる内容を定められて、それを逸脱することは絶対にできない。こういう区切りというのは、心身の発達状況から今日的に見るとこういう実態があるということで、そういう特性を理解した上でいかに効果的に指導するか、という認識を共通で持つということが大事なのかなと思う。

委員長

4で区切ったほうがいいのか、3で区切ったほうがいいのか、それぞれ地域によって、あるいは子供の成長の過程、お一人お一人本来違うのでなかなか難しいが、少なくとも学校単位できちっと現状を把握して、そういう区切りが大事であるという意見が多いように理解している。先ほど4年生が特徴的だという話があったが、3で区切るのがいいのか、4で区切るのがいいのか、という議論もあろうかと思うが、その辺はいかがか。

委員

期では4年生をリーダーに育て上げる。反発する子供たちもさっき自尊感情という言葉が出てきたが、自分が生かされている、役に立っているんだという満足感が得られるという気がする。それが期へのスタートにつながるのではないかと思う。今、小学校は6年生がリーダーである。4年生でもリーダーの経験をさせることが大事であると思う。

委員長

今年、足立区の興本扇学園に行かせていただいた。そこは、小学校5、6年生が中学校の校舎で中学生と一緒にいる。小学校の校舎は、1年生から4年生までである。やはり、4年生になると、今まで6年生がリーダーシップを発揮してきたことを4年生がやるとい

うことで、自尊感情についてまでは特になかったが、非常に役割意識を強く持って4年生が行動するという話が校長先生からあった。4年の区切りと3年の区切りでは、4年のほうが良いのかなという感覚がしないでもない。

委員

4年生の子供と周りの子供たちを見てのことであるが、学習ということに関して言うと3年生までの基礎をどれだけ積み重ねてきたのかによって、4年生以降の学力にすごく差が出るということを感じている。基礎の習熟となると、3年生まではわりと重要で4年生からどちらかという発展的なことという印象を受けている。ただ、本当に自分の周りだけしか見てないことではあるが、4年生がキーワードになって、その時にリーダーシップとか自分の役割意識を持つことは、非常に意義の深いことだと思う。

委員長

学力の面では、期の部分は3年生が切れ目かなという意見である。4年生からもう変わってくるのではないか。今の子供は発達早いのではないか。私たちの子供の時代に比べると情報量も多いが、私たちはのんびりやっていたという感じがしないでもない。それぞれ特徴があるかと思うが、いかがか。

委員

期を4年にするか3年にするかということは、大きな問題であるが、子供を一人ひとり個で捉えてみると、6年生でもまだ3年生ぐらいの子もいる。1年生でも5、6年生並みの子もいる。以前あった3、4年生がギャングエージだよ、一番精神的な発達の活動時期だよと言われるのは、現場では崩れている。ただ、3年生ぐらいから知能の発達から社会性が広がっていく。そこで、学習指導要領などは2年区切りで示されている教科が多い。

低学年、中学年、高学年ということで、それを踏まえて考えると、4・3・2の区切り、期・期・期のほうが良いのかなというふうに総合的に考える。問題なのは、4年生だから最高学年になるということではないと思う。というのは、現在、幼稚園、保育園の年長組は、かなり高度なことをやっている。ところが、小学校に入ると、小学校6年間の1番下として、幼稚園児扱いしてしまう。幼児返りがそこで起きている。幼稚園の年長組は、自分たちで掃除したりして、てきぱきやっている。ところが小学校1年生になると、給食の配膳もできない子が途端にできてしまう。それは、そういう目で教員や周りの子供たちが見ているからである。やはり、幼稚園で学んだ育ちを活用しながら、1年生でも伸ばしていかなければいけないものがある。そういう幼少の連携、小中の連携を考えていかなければいけないだろう。指導要領が2年区切りになっているので、発達段階から考えて、4年生あたりが良いのではないか。2・2・2で区切ったら、それなりの発達はあるけれども、今一番足りないとされている道德のコミュニケーション能力、かかわりあい、仲間

というところのくくりが、2年単位では小さくなってしまわないだろうか。その辺を考慮しながら、4・3・2のくくりが良いと考えている。

委員

私もやはり5・4よりは、4・3・2のほうが良いなと思っている。そのほかは、考えにくい。

委員

4と3の区切りのところは、よくわかったが、4・3・2の3と2の区切りというのは、どのように考えたらよいのか。

委員

この4・3・2の議論の中で、3と2の区切りは気になるところである。中学校の子供たちの実態を見ると、1年生がものすごく幼い。以前、2年生はもっと反抗期で、大人に近づく学年であったが、最近は、2年生になるとようやく中学生らしくなってくるように思う。それで、4・3・2は、そういう意味ではすごく良いと思う。ただ、反面、小学校6年生と中学校1年生の間に段差という大きな壁がある。人間の人生の節目ということから言うと、あの幼い1年生が中学生になって何かやろうという人生の節目という意義を感じて、新しい生活にチャレンジしようということもある。だから、段差という考え方とそれから人間の大切な節目という考え方を生かした4・3・2に取り組めたら良いと前々から思っていた。

委員

中学生は、2年生、3年生になるとかなり落ち着いてくる。1年生から2年生でいうと身長が10センチぐらい伸びる。ばらつきは当然あるが、やはり1年生は、かなり2年生、3年生と比べると幼稚である。そういう部分では、まだ大人への過渡期というか、青年への移行期の前という感じである。2年生、3年生になると、学校の中心でもあるし、進路というものも実感する。将来に対するヴィジョン等も芽生えてくる。1年生は中学に入ったということで、社会が制服を着ているから大人に認識してくれるという程度で、中身はあまりない。ですから、やはり4・3・2のくくりが良いのかなと思う。

委員

3人息子がおり、一番下が中1になったが、やはり一番下なので、手をやいてしまう。もう中学生になったのだから自分でできるという言葉が結構出る。6年生で卒業式をやつて、でも小学生のことも少し気にしながらという生活は、とても良いと考える。真ん中が中3であるが、今度は高校生の兄を見つつ、やはり高校に向かっての意識があるので、そ

れを2年生ぐらいからつけていくと、もっと良いのではないかと実感している。

委員長

呉の中央学園の二分の一成人式がある。4年生でリーダーシップをとれることはいいが、4・3・2の3になったときに、そのところの意識というか子供の自覚というもの、あるいは意欲、関心ということにつながると思うが、足立区の校長先生からは、一つひとつの区切りの大きな行事について、今までの良さをどのように残していくのかということについて工夫が必要であるという話があった。

教育内容の中で、特色づくりということがどうしても出てくる。どういう特色をこの学校の中でということは、具体的に学校が決まって初めて出てくることかなという部分もあるが、特色づくりについて何かあればお願いします。

事務局

小中一貫教育校の特色については、来年、積極的に議論いただきたいと考えているが、たとえば心の教育をどのように推進していくのかということも特色の一つになるのではないかなと思っている。また、小中一貫教育校をどこで行っていくのかということも、その地域の特性であるとか、児童・生徒の実態に応じて、どういった特色を立てていけば良いのかということもあるかと思う。また、社会の要請からもいろいろと特色を考えていくことができるかと思う。たとえば、健康、体力の低下が話題になっているので、そういったことも特色の一つとしていくこともできるとしている。また、こういったことを小中一貫教育校の特色としていきたいというような意見があればお聞かせいただきたい。

委員長

今のことも含めて何かあるか。教育委員のほうから出ている「期から期へ継続的に外部指導員と連携した生涯スポーツの取組」であるが、その説明、用語の中には、中学校の部活動と小学校のクラブ活動、その辺のことについて、それも特色づくりとして、今後、議論いただくということだと思うが、何か事務局のほうでここでまとめたことと教育委員の発言について、今の時点でお話できることがあるか。

今、試みを連携の中でやっている学校はいくつかあるのか。

事務局

中村小学校と中村中学校が一昨年度から研究校の指定を受け、研究の一環として、中村小はクラブ活動、中学校は部活動ということで、行き来をしている。連携の部活動というような実績はある。

委員長

教育委員の発言の中に、先輩後輩意識というのがある。それぞれ考えがあろうかとは思いますが、道徳意識の中には自立心以外にも人に敬意をはらう、敬意のはらい方の問題もあると思うが、先輩後輩という話も出ているけれども、その辺について意見があればお願いします。教える立場と教わる立場、絶対的ということではないが、目上の人に敬意をはらい、感謝の気持ちを持つことは、個人的には大事なのかなと思う。

今後、一貫教育の内容の中で、そういう話が知・徳・体の中で出てくるという気はする。

委員

中学校3年生の娘がいる。道を隔てた隣に小学校があり、私立受験とか自由選択制で他校へ行く子供以外は、エスカレーター方式で中学校に来る。小学校からぼんときて、小学校の時代から縦割りということで、一応6年生が低学年の面倒を見て、行事をかなりこなしてきているので、子供たち同士はすごく仲がいい。小学校の時と同じ感覚でそのまま中学校に上がってくるので、後輩が先輩として意識をしていない。しゃべる口調も先輩を尊敬していないような感じを受ける。やはり、何校かの小学校から集まって、かなり大きい中学校になると、見たことのない先輩がいると先輩って怖いんだなというイメージがあり、先輩を敬うという心が生まれてくると思われる。うちの学校に関しては、やはりそういう上下関係というのが育たないまま高校に行ってしまう。高校に行くと上下関係がはっきりしてくるので、心配される保護者の方もいる。特に先ほどから小学校の保護者の方から質問が多いが、小中一貫となると中学校の保護者よりも小学校の保護者のほうが心配ごとが生じてくるのではないかと感じる。小学校の校長先生と中学校の校長先生のアンケートの結果を見ると、中学校の校長先生方はかなり前向きな答えを出している。小学校の先生方はやはり上のほうから入ってこられるとちょっとというのがあるのかなと自分なりに感じた。現在、中学校と小学校で3年前から小中連携をやっている。そういうのを見た感じでこの区切りでいう4・3・2であるが、5年生に教科担任が入ることについて、小学校の先生は「いや、5年生まではちょっと」という反応があるそうである。しかし、中学校の先生は、中学校に入ってきて、学力がついていないなと感じているそうである。やはり、小学校の時の基礎の段階で、きちんと子供たちに浸透していないまま中学校に来てしまうと、うちの中学校のように、二こぶラクダ状態で、できる子、できない子というのがかなりはっきりしてしまう傾向が生じてしまう。以前、中学校から小学校の担任の先生に、たとえば数学をどのように児童に教えているのかという質問に対して、「教科書どおりやっています。」という答えが返ってきたということがあり、考え方の違いがあった。また、中学校の保護者は、小学校の基礎があつてのことなのに、中学校はもう少し勉強の仕方考えたほうが良いのではないかとということで、かなり立腹している保護者もいる。中3になって小数の計算とか分数の計算ができない生徒がいるという問題もあるが、それは基礎ができていないからであり、いきなり中学校で発展的なことをやってもついていけない。うち

の学校しか分からないが、やはり中学校の先生は、5、6年生まで降りて、そこで興味を持たせる。数学、算数、社会、理科はおもしろいんだなと思わせておいて、中学校に入ってから専門的にやったほうが子供たちの食いつきはあるのかなとすごく感じた。

委員長

意見ということで、受け止めさせていただく。

ほかにこの小中一貫教育の内容について事務局のほうで確認したい点があればお願いします。

事務局

貴重な意見をどうもありがとうございました。教科担任制のところについて意見をいただき、非常に参考になった。

委員長

今日の議論はこれで終えたいと思う。

前回提案のあった視察についてお願いします。

事務局

12月5日または12月13日のいずれかに、足立区興本扇学園を視察したいと考えている。

委員長

なるべく早い時期に視察をしたほうが良いので、12月に設定をしたい。なるべく都合をつけて、参加していただけるとありがたい。

委員

この学校を選んだ理由は何か。

事務局

品川区は、理想像ではあるが、どこの自治体でもできる代物ではない。したがって、練馬区ではあまり参考にならないものと思われる。三鷹市は、小学校2校、中学校1校が連携する形でやっている。足立区は、道を挟んで小と中が隣り合わせである。そして、小学校5、6年生が中学校の校舎に入っている。そのような形が参考になると思われる。三つとも見ると比較検討できるので理想的ではあるが、時間も限られているため、まずは足立区の興本扇学園を視察するのが良いのではないかと思った。

委員長

比較的近接した併設型という形が、検討に当たって一番参考になるものと思われる。
品川の日野学園は完全にできあがっている。元々、日野学園も併設型でやっていたのか。

事務局

元々、小学校と中学校が別々で、歩いて 20 分ぐらいの距離で一貫教育を行っていた。

委員長

三鷹市は、小学校、中学校は学区域が皆重なっており、コミュニティスクールという形で運営している。今の考え方からいくと、小中の連携という形で理解したほうが良いのかなという気はする。それも一つのやり方である。足立区のものが今考えている中で一番近いと思うので、参考までにまずは見ていただきたい。

事務局

12月5日ということで、調整する。

委員長

12月5日、8時半集合をお願いします。

事務局

第3回推進委員会は、平成19年12月20日、木曜日、教育委員会室で午後3時から5時まで予定している。

委員長

第2回目の推進委員会を終える。長時間ありがとうございました。